

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	無汗症患者の汗腺周囲の炎症細胞浸潤の検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2010年以降に新潟大学皮膚科で無汗症と診断され、皮膚生検を行っている患者さん
③概要	<p>2010年4月1日以降に新潟大学皮膚科で無汗症と診断され、皮膚生検を行っている患者さんの皮膚生検組織を解析し、無汗症の原因を明らかに出来るかを検討する研究です。</p> <p>無汗症と臨床診断され、診断目的に発汗試験を行った後に皮膚生検を行った患者さんが対象になります。</p> <p>なお、研究対象者は研究に参加したくない場合には以下の問い合わせ先に連絡をすることで拒否することが出来ます。また、拒否をしても診療には影響はありません。</p>
④申請番号	2023-0282
⑤研究の目的・意義	<p>無汗症には様々な原因があり、無汗症の原因となりうる鑑別疾患を除外していくが、多くは原因が発見できず、特発性後天性全身性無汗症 (acquired idiopathic generalized anhidrosis: AIGA) と診断される。AIGA は、後天的に全身の皮膚で発汗が低下し、自律神経異常や神経学的異常を伴わない疾患です。AIGA はほとんど東アジアからの報告であり、9割は男性、76%にコリン性蕁麻疹の合併がみられるという特徴があります。よって、日本においては AIGA 患者が多いが故にすべての無汗症の除外がしきれずに AIGA と診断され、ステロイドパルスを施行された後で、後に脳腫瘍などの別の診断になった報告もあります。一方で、無汗症の患者に対して全例、脳 MRI を含めた過剰な全身精査をすることは現実的ではありません。AIGA においては無汗部の汗腺周囲に炎症細胞浸潤が多い、肥満細胞の浸潤があるなどの報告がありますが、日常診療において AIGA 患者の無汗部の汗腺周囲に炎症細胞浸潤が少ないことや AIGA 以外の無汗症患者の無汗部の汗腺周囲にも肥満細胞を含めた炎症細胞浸潤がみられることを経験します。</p> <p>本研究では、無汗症患者から採取した皮膚病理組織の検体を用いて、汗腺周囲の炎症細胞数、炎症細胞の種類を解析し、皮膚病理組織から診断に結び付けることが出来るかどうかを検討します。</p>
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2028年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその	新潟大学皮膚科で皮膚生検を施行した無汗症患者さんの組織標本を利用します。なお、提供していただく情報については、氏名や診療番号を消していわゆる匿名化を行うことにより個人が特定できないようにしま

方法を含む。)	す、また、得られたデータが医学の発展になる場合に個人が特定できない状態で学会発表や論文化する可能性があります。
㊸利用または提供する情報の項目	日常診療で行った検査データ、診療記録、皮膚生検結果を使用いたしません。
㊸利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 新潟大学 皮膚科 林 良太、武居慎吾、勝見達也、阿部理一郎
㊸試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 皮膚科 林 良太
㊸お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：皮膚科 氏名：林 良太 Tel：025-227-2282 E-mail：rh19840629@med.niigata-u.ac.jp